

25journal

society&business Tokyo25 journal
執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

開かれた村政実現に意欲 吉本昂二新村長に聞く

4月の檜原村長選で、初当選した吉本昂二村長(70)に村政の舵取りについて聞いた。開かれた村政を実現し、村民の声を聞き、職員と一緒に村を発展させたとの強い決意がうかがえた。産業廃棄物焼却場の建設問題は、事業者と直接会い、「現状では設置するつもりはない」との確約を得たという。

建設阻止の活動の中で、ここで閉鎖的な村政の流れを変えなくてはならないの思いが強くなった。年の瀬の

12月30日に立候補を決め、1月1日に親戚に告げた。地域の皆さんや友人、知人の支援をもらい、5期20年のキャリアを積んだ現職に挑んだ。ある程度戦えるだろうとの目算はあったが、産業廃棄物焼却場建設阻止、開かれた村政の実現が支持された。村民の思いを重く受け止め、しっかりと働かせてもらうつもりだ。

産業廃棄物焼却場は選挙戦直前に事業者が建設を取りやめた。選挙の争点がぼやけたように感じたが、「選挙戦に入っても」

「産業廃棄物焼却場阻止を完遂しますと訴えた。村政を預かり、取りやめを確実なものにするために7月5日に比留間運送の比留間宏明社長と1時間余り話し合った。この中で計画撤回に至った理由である冷却用の井戸水確保が難しい状況は変わらないため、小型焼却炉、最終処分場、廃プラ処理施設について現状では『やるつもりはない』との回答をもらった」

比留間運送も地域では名のある企業だ。口頭による紳士協定だが、信用できるだろう。「その感触は得た。いずれにしても建設は村として断固反対する」



吉本流の村政をスタート

食と農を基軸とする地域に根ざした農協を目指す

JA西東京(本店・青梅市野上町)は6月の通常総代会で役員改選を行い、総代会後の理事会で松永重徳氏(写真)が新組合長に就任した。任期は2026年の総代会まで。コロナ禍とロシア・ウクライナ戦争などで経済情勢の先行き不透明感がぬぐえず、農協に改革の波が押し寄せる中での舵取りになる。松永組合長は、農業所得の向上に努め、食と農を基軸とする地域に根ざした農協であることを目指し、着実な事業運営に徹したいという。

新組合長として抱負 大切に、今後は自主運用にも力を入れ、地域の発展につなげていきたい。頼ってもらえる農協を目指し、地域の人の手足となり働く農協でありたいと思っている。コロナ禍を経て、今年はJA行事も可能な限り取り組むとしている。

「農家の所得を上げ、農業が継続できるように。頼ってもらえる農協を目指し、地域の人の手足となり働く農協でありたい。JA西東京は20年ほど前に年金友の会の組織を立ち上げ、受給者口座が都内で最も多い農協となった。口座には年間120億円ほど振り込まれており、組合員の皆さんとのつながりを

大切にする。今年も予定する、組合員と会話をし、交流を深めることは一番大事なことです。組合員

の意見を聞きながら、農協運営を図っていくたい。そのために近年、アンケートを行い、一昨年準組合員の皆さんにモニターアンケートを行い、昨年は総代の皆さんにアンケートを行い、声を吸い上げている」

持続可能な東京農業の確立に向け、JA西

「収益構造は変わりつつあり、現在は信用事業70%、共済事業20%、経済事業10%であるが、

「青梅、奥多摩の長所は安全な場所ということ。地震が大事だと思う。地震にも強く、しっかりと土砂災害対策を行えば、災害も少ない地域と言える。山があり川があり、自然が豊かで、社会インフラも整っている。こうした中で農協は準組合員を含め1万4000人の組合員を擁しており、これは住民の10人に1人が組合員になってもらっているということになる。農協は地域の半ば公的団体とも言え、組合員で良かったと思ってもらえるよう役職員一丸となって大いに努力していきたい」



「収益構造は変わりつつあり、現在は信用事業70%、共済事業20%、経済事業10%であるが、

「青梅、奥多摩の長所は安全な場所ということ。地震が大事だと思う。地震にも強く、しっかりと土砂災害対策を行えば、災害も少ない地域と言える。山があり川があり、自然が豊かで、社会インフラも整っている。こうした中で農協は準組合員を含め1万4000人の組合員を擁しており、これは住民の10人に1人が組合員になってもらっているということになる。農協は地域の半ば公的団体とも言え、組合員で良かったと思ってもらえるよう役職員一丸となって大いに努力していきたい」

どこに行っても治らなかった方へ(3密対策を徹底)

秋川駅北口 (エアドック設置) 43年の実績

太田ハリ灸治療院

042(550)5591 完全予約診療(当日予約も可) 土日も診療

初診料 3,000円
治療費 3,500円 (学生2,500円)

この広告で来院した方は初診料無料

坐骨神経痛、ヘルニア(腰、頸椎)、脊管狭窄、五十肩、ひざ関節症、肩こり、エルボ(テニス・ゴルフ)、湿疹、スポーツ障害など

坐骨神経痛=お尻から足にかけて痛み、シビレで歩くことが困難な方

あきる野市出身の演歌歌手、三田りょうさんにとって、ステーションやロケ番組の収録の際、足腰の痛みなどは禁物。太田ハリ灸治療院で、万全な身体を維持しています。

治療にあたる太田院長

あきる野市秋川1-1-13ABCビル3階 秋川駅徒歩1分

「直売センターに作物を出荷し、利益が上がる好循環ができています。所得が上がれば担い手も育つ。農家の若い人が後を継いでいく。安心して育てていきたい。安心安全で食べられる作物は消費者に喜ばれる。直売センターの充実が組合員の皆さんの協力が必要で、今後は魅力ある直売センターづくりを農協として取り組む。7年前から今井4丁目の休耕地を利用して、営農課職員が野菜作りを行っている。青梅大豆などのブランド化に向け、6次産業化にもつなげていきたい」

「自然を守り、活かす村づくりを前進させたい。安心して安全な暮らしや、村の自然を未来永劫守っていききたい」

のために生き生きと働ける環境を整備したい。小林泰夫副村長を全会一致で承認してもらい、7月3日に各課に取り組みべき政策を割り振り、取り掛かったところだ。元郷バス待合所の建設は地元の理解を得て早期に実現したい。道路に子どもたちがはみだせば命の危険がある

開かれた村政という点では、住民全体会議の開催が画期的だ。「計画段階から住民の声を聞き、反映させる仕組みをつくり、村政をガラス張りになりたい。まずは住民懇談会を9月21日から29日まで本宿、小沢、人里の3会場で開催。懇談会は年2回予定している。住民全体会議は現在日程を調整している」

住民全体会議が村民の意思を反映させる場になれば、直接民主制への道を開くものになる。議会の存在意義が問われ、議員の成り手も不足する中、期待が広がる。

「未来の檜原のため、政策を決め、進める上で住民の参加の場をつくり、実のあるものにした」と思っている

「笹野地区にはサテライトオフィスが整備

る。そのためにこの手の課題に詳しい元市長我孫子市長で中央学院大学教授の福嶋浩彦教授を講師として職員研修会も行う。村民の声を聞き、政策をまとめ予算化するまでの手法を学んでいくことになる」

産業の育成については、観光産業は混雑などの情報をリアルタイムで発信するなどインバウンドに対応し、エコツーリズムの充実も図っていききたい。SDGsのニーズに対応した林業、おもちゃや木材加工など6次産業化も推進したい。空き家を活用した情報サービス産業の誘致や自然を生かしたエコビレッジ構想にも取り組んでいく

コロナ禍のテレワークの普及で、Wi-Fiなどインターネット環境さえ整備されれば、オンラインネット授業や遠隔診療が当たり前になり、課題の教育や医療がある程度解決する。檜原村の優位性が高まることは明らかだ。

「笹野地区にはサテライトオフィスが整備

され、指定管理者制度で運営している。需要もすっかりとある。仕事をしながら余暇を楽しむワーケーションの最適地としてアピールしていきたい。こうした人たちが定住を選択してくればありがたい」

開かれた村政は、不透明感を払拭するものだ。

「これまでも指摘されてきた林業関係の補助金などが1カ所に集中することなどを防ぎ、しっかりと公開できるものにしていく」

前進すれば波風が立つ。抵抗でストップするのではなく、推進力に変えて進んでいくことを願っている。吉本村政のキャッチフレーズを決めなければならぬが、30年余り前に当時の秋川市が「グリーンフロント秋川構想」を掲げた。今こそ、「ニューグリーンフロント檜原構想」が時代に合致したものと思うが。

「村民が希望を持ち、村に誇りが持てる、そんなキャッチフレーズを決めて、前進したい」

本日はありがとうございました。

近隣在住者 400人招待 ラリーの応酬に大声援



プレーの合間には観衆の応援が響き渡った

卓球のノジマTリーグが開幕した。男子が7月29日、女子が30日、それぞれアリーナ立川立飛で開幕戦を行い、男子は張本智和を擁する琉球が、女子は平野美宇らスター選手を揃えた神奈川がそれぞれ白星発進した。世界トップレベルの卓球を地元の人に観てもらおうと、近隣在住者が2日間で400人無料招待された。詰めかけた一般観客と一緒にラリーの応酬に大声援を送った



女子ダブルスの試合

張本智和、平野ら躍動 卓球のTリーグ開幕

男子は琉球が東京を3-2で退けた。琉球は第1試合のダブルスを制し、第2試合で張本智和が篠塚大登にストリートで快勝。第3、4試合を落として追い付

基に11-5で勝った。

女子は神奈川が名古屋に4-0で快勝した。神奈川は第1試合で木原美悠、張本美和組が勝利。シングルスでは平野美宇がユエン(中国)に、張本美和は安藤みなみに快勝して勝負を決め、第4試合は長崎美柚が南波侑里香を下した。

今季は男子の静岡と金沢が参入し、男女とも6チームで争う。試



るのスポーツの子どもたち

子どもたちのスポーツの大きな収穫

合は来年3月3日まで全国各地を転戦して行われ、男女の上位3チームずつがプレーオフで王者を決める。選手は勝利数に応じ、来年のパリ五輪シングルズ代表選考ポイントを獲得できる。

アリーナの中央に置かれた縦274センチ、幅152.5センチの台の上にライトが注がれ、観客の目が集中する。スピードと多彩な技術に、心理戦を交え、世界を舞台に活躍する張本智和、平野美宇らが躍動した。スピーディーなラリー、ボールに複雑な回転を掛け合う技術、相手の裏を突く打球。その戦いはボクシングの打ち合いやフェンシングの突き合いにもたとえられよう。

Tリーグは世界で活躍する選手たちが目の前で見られ、卓球少年、少女の憧れの場だ。開幕戦の両日、るのスポーツ(青木龍太代表、あきる野市)で卓球に打ち込む子どもたちは開幕戦のボールパーソンを務め、より身近で試合に接した。

柳本亜樹さん(東秋留小6年)は「ボールパーソンをすることが出来て嬉しかった。ボールを拾いながら、選手を間近で見ても吉村真晴選手と及川瑞基選手の打ち合いは凄かった。自分も将来はセンターコートで

試合ができる選手になりたい。そのためにもっと練習をして強くなりたいと思った」という。

田中瑛啓さん(拜島第三小6年)は「観覧席からしか試合を見るのがなかったが、今回、ボールパーソンとして、選手の近くでボール拾いをやり、目の前で試合が展開された。台から離れたプレーなど迫力が凄かった。体格の大きさ、自分もしっかり身体づくりをして、上位で活躍する選手になりたい」と決意した。

戸建住宅にお住まいの方 超高速インターネット光回線

ケーブルテレビは“テレビ”だけじゃない!

tnet光2.5G

最大通信速度 下り 約2.5 Gbps / 上り 約1.25 Gbps

初期設定 通隔サポート 出張訪問 安心の0円!

最新情報

青柳・羽村・福生のケーブルテレビ局

TCN 多摩ケーブルネットワーク 0428-32-1351